

## 佐倉城(鹿島城)(佐倉市史跡, 百名城)(佐倉市城内町)(佐倉城址公園)

佐倉城（さくらじょう）は、千葉県佐倉市城内町にあった近世の日本の城である。

### 概要

佐倉城は、鹿島山の西端部に築かれ、西側と南側を囲みこむように鹿島川とそれに合流する高崎川が流れ北側には印旛沼に至る低湿地が広がっていた。戦国時代、本佐倉城主千葉親胤が大叔父にあたる鹿島幹胤命じて築城を開始したが、親胤が暗殺されたために工事は中止され、千葉邦胤の代にも工事が試みられたものの今度も邦胤の暗殺によって完成することはなかった。だが、いつしか築城予定地には鹿島親幹にちなんで「鹿島台」と呼ばれるようになったという。

1610年（慶長15年）に、徳川家康の命を受けた土井利勝によって築城が再開され、ついに佐倉城が完成した。江戸時代は佐倉藩の藩庁が置かれた。城主は江戸幕府の要職に就くことが多く、なおかつ初期は城主の入れ替わりが多く、江戸初期に城主であった堀田正信（後に改易されている）の弟・堀田正俊の孫・堀田正亮が11万石で再入封（後期堀田氏ともいう）してからは、安定した藩の経営を行っている（*詳細は佐倉藩を参照のこと*）。

城郭は比較的質素で石垣を一切用いず、干拓以前の広大だった印旛沼を外堀の一部にし、三重櫓（御三階櫓）を天守の代用としている。このようなケースは関東地方を領した、要衝を預かる城郭を除き、川越城や古河城などの譜代各藩の城にみられた。

しかし明治維新後に廃城令により建物を撤去。その後帝国陸軍歩兵第2連隊、後に歩兵第57連隊（通称・佐倉連隊）の駐屯地となったため、更に佐倉城の名残は消し去られてしまった。1962年（昭和37年）3月28日に市の史跡に指定され、現在は跡地は佐倉城址公園として整備されており、その一区画に国立歴史民俗博物館が建っている。

### 歴史・沿革

- 天文年間、千葉親胤の命により、鹿島親幹が築城。
- 千葉邦胤が改修を試みるも、邦胤自身の暗殺により中断。
- 1610年（慶長15年） 土井利勝が普請を開始。
- 1813年（文化10年） 盗賊の失火により天守焼失。
- 1873年（明治6年） 第一軍管東京鎮台佐倉分管が置かれ、存城処分とされ、兵営設置のため旧城の建物を払い下げ、撤去する。
- 1962年（昭和37年） 市の史跡に指定。
- 2006年（平成18年）4月6日、日本100名城（20番）に選定された。

### 近年の状況

佐倉城は現在遺構としては門が一つ移築されているに過ぎない。ただし、この門に関しても、江戸期の建造物ではあるものの城門ではないものと考えられている。国立歴史民俗博物館建設の際、敷地一帯の発掘調査と整備が行われ、連隊当時に平削・埋立された遺構の一部（馬出し・空堀・土塁等）が復元されている。このように、建造物は現存しないが、明治時代初年頃に撮影された写真が比較的多く残っており、建物の跡には写真を載せた説明の看板が設置されている。また、佐倉市の市制50周年記念事業（2004年）として佐倉城再建促進協議会などにより佐倉城の再建計画が持ち上がっていたが、市の財政難などにより計画は宙に浮いてしまった。

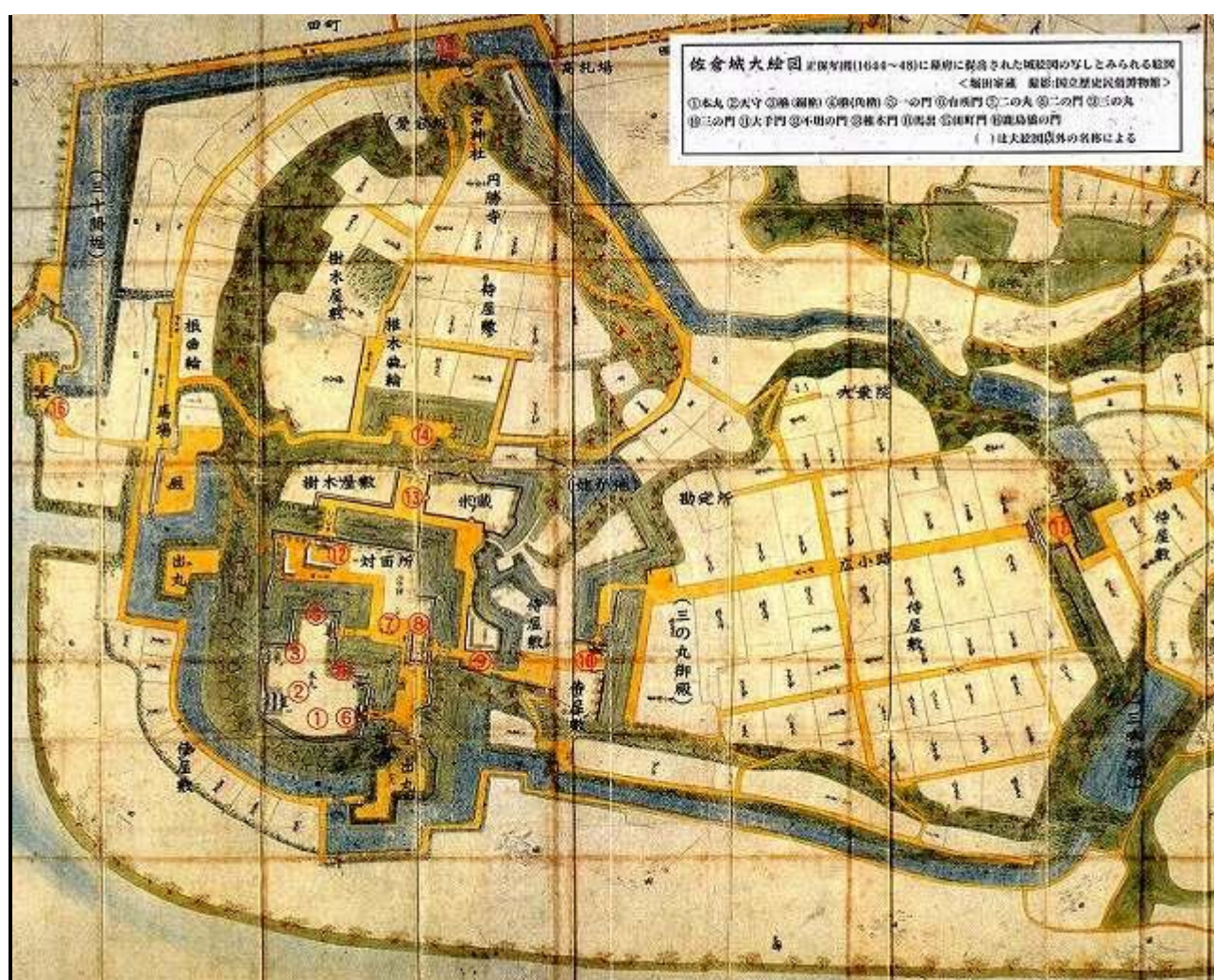
Wikipediaによる



本丸跡芝生広場



天守台跡





# 城址公園案内図

